

大会4日目。快晴の下、競技のクライマックスであるエンデュランス・燃費が行われ、動的イベント会場には、大会に集うすべての人々の熱い思いが集中した。平行してEVフォーミュラのデモ走行も実施された。



●エンデュランス



上位校から順調に走行し、よいタイムを出している。全体的には運転技術は向上しているが、車両の性能を充分引き出す運転技術は



走りを支えるチームスタッフ



記録も大切



出走直前の打合せ

観客も多く、完走したチームにも暖かい拍手が送られています。観るほうのレベルも上がってきた？



今年から始めたガイドツアーを聞きながら取材や観戦も行われている。ガイドツアースタッフには学生チームOBも多く協力してもらっています。

●EVエンデュランスデモ EV Endurance Demonstration

エンデュランス競技の合間には、EVのデモンストレーションも行われた。今回エントリーしたのは6校。そのうち実際に出走した静岡理科大学と金沢大学(写真左)。右は疾走する静岡理科大学。昨日までに模擬車検(技術検査、車重、アクセラレーション・スキットパッドデモ)とオートクロスデモも行われた。



●チームピックアップ Team Pick Up

北京理工大学(初参加)



チーム結成2年目で中国国内大会の上位に入賞し、日本初遠征。今回の目標は全種目完走。「中国は多くの技術を学ぶ時であり、チームは情熱を持って日夜クルマづくりに取り組んでいる。国際大会は異文化交流ができるよい機会だ。日本のチームは部品や技術を惜しみなく提供してくれたし、オーガナイザーもプロ並のサポートをしてくれたので多くの困難を克服できた。また来年も挑戦したい。」

北海道自動車短期大学



今大会は、女性ドライバーも増えた。大会参加2回目。目標は全工程完走。開発コンセプトは「初心」。女性でも乗りやすいクルマ。ドライバーの山崎亜理紗さん。「体調管理に気を使います。進化に向けてできるだけ多くのデータを持ち帰りたいです。」

●会場点描 Lovely People



エンデュランスも終り、ピットの雰囲気も緩んで、あちこちで技術交流が始まる



奥様はモンゴルの方。日本人のご主人は大会OB
「子供が大会に出るのが楽しみ!？」



エンジンの音がちょっと怖かった。EVなら大丈夫？



オートクロスのリザルト発表(7日17時)には自分たちの成績を見るために大きな人だかり



「とっても走りやすかったよ。」
(Swinburne Univ)



お疲れ様 zzz.....